



1_川の中はどうなっているのか、のぞいてみよう 2_カワセミなどが描かれた石を発見 3_水生生物探しのプロに教わりながら、網を使って観察。中に入っていたのは…… 4_サップボードに乗り、水上から景色を楽しむ

水辺でジャブジャブ、心ワクワク♪ 真夏の小田川を遊び尽くす「川まつり」

「小田川大冒険・元気わくわく川まつり 2026」（同実行委員会・五十崎自治センター共催、上石富一実行委員長）が7月19日、豊秋橋周辺の河原で開かれました。

川ならではの楽しさと危険性を学び、身近な小田川に親子で親しんでもらうことを目的に開催しています。参加者約40人は初めにライフジャケットの着用方法を教わり、「深いところには行かないで」と川で安全に遊ぶためのルールについて説明を受けます。その後、サップボードやボート乗り、水生生物観察、川漁体験などに次々と挑戦。川辺に住む魚や鳥の絵が描かれた石を水中から見つける「ぞぶりんぐ」では、子どもたちが膝ほどの水面をじっと見つめながら夢中になって探していました。また川の水質調査体験もあり、内子の自然の豊かさを直に感じる一日となりました。

実行委員の小野里枝美さんは「運営に関わって20年——始めた頃の参加者が、今は子どもを連れてきてくれるようになった。『毎年楽しみ』という声がやりがい。川を満喫して、好きになってほしい」と話しました。

会場いっぱいの音色と笑顔 心躍る音楽イベント「小田フェス」

「小田フェス」が6月20日、文化交流センタースバルで開かれました。県内のアマチュアバンドなど8組が、歌と楽器演奏を披露。内子町を中心に活動する uchiko-note は、町内の有志が作詞・作曲した健康体操「だんだん内子町体操」で会場を盛り上げます。また当日はドーナツやかき氷を販売するマルシェもあり、家族連れなど多くの来場者でにぎわいました。



心を込めた演奏で、観客を引き込む uchiko-note のライブ

自然の中で自分と向き合い、心整う時間 滝打たれ体験が今年もスタート

内子ツーリズム推進協議会が主催する「みそぎ滝打たれ体験」が始まりました。舞台は御祓地区・紅葉ヶ滝。参加者は白装束に身を包んで、17mの落差がある滝に打たれます。日常を離れて心身を整える体験は町内外から大人気。兵庫県からの参加者は「終わった直後はすっきりした感覚。気持ちを整えたい人にも、純粋に涼を求める人にもおすすめ」と話しました。



滝水とともに心の疲れを流す、特別な体験



1_30周年への思いを込めて、スイカ柄のくす玉を割る 2_売り場を巡り、町内生産者自慢の品を求める買い物客 3_出来立てのソーキそばを味わう 4_姉妹町村・沖縄県宜野座村の魅力を笑顔でPRするスタッフ

地域に親しまれ開業30周年 歩み重ねた道の駅からりで記念祭

道の駅内子フレッシュパークからりが開業30周年を迎え、記念祭が7月19・20日に開催されました。

19日の記念セレモニーでは、代表取締役会長・小野植正久町長が「『からりの元気は、内子の元気』の理念のもと、これからも多くの人に親しまれる場所にしていきたい」とあいさつ。餅・菓子まきや町の特産品が当たる抽選会、愛媛県在住の美ら島沖縄大使・ポン川村さんによるトランペット演奏などで節目を祝いました。

直売所には町内の生産者が育てた農産物が並び、新鮮な野菜や果物を求める人でにぎわいます。また同時開催された「宜野座村フェア」では、マンゴーやパイナップル、海ブドウなどを販売。内子豚と宜野座村産のじゃが麺を使ったソーキそばも用意され、姉妹町村がコラボレーションした一品に注目が集まりました。

代表取締役社長・山口佳一さんは「地元産へのこだわりが評価され、全国モデル道の駅にも選ばれた。今後も取り組みに磨きをかけ、出荷者と力を合わせて農業と地域の発展に貢献していきたい」と話しました。

町老連「ボッチャ大会」を初開催 寺村Aチームが初代チャンピオンに

内子町老人クラブ連合会の「会長杯ボッチャ大会」が7月17日、共生館で開かれました。昨年度実施した体験会が好評だったことから大会が実現。3支部から計39チーム・約120人が参加し、選手らは目印の白球にめがけて互いにボールを投げて点数を競いました。大塚生男副会長は「失敗も成功も笑い合って、会員同士で交流できる。今後も気軽に参加してほしい」と語りました。



チームメイトが見守る中、勝負の一投

町と包括的連携・協力協定を結ぶ四国学院大 小田に伝わる伝説を基に創作演劇を披露

四国学院大学・演劇コースの学生が内子町を訪れ、「登貴姫伝説 Performance」を7月25日、小田燈籠まつりで披露しました。学生らは事前に清盛寺などゆかりの地を巡り、住民の話から作品をイメージ。芝居や踊りで物語を独創的に表現しました。登貴姫を演じた矢部紗也奈さんは「伝説と同じく、小田の皆さんは温かかった。またきつと内子に帰ってきます」とあいさつしました。



病に倒れた姫のそばに種が。清盛寺の梅の木に育ったという